



北区の魅力  
再・発・見

# 北区ニュース

おことわり

北区ニュース3月20号は  
「北区の魅力再発見」  
特集紙面で包んでいます。

平成30年(2018)



北区の今むかし  
〜浮世絵と古写真から〜

一面に広がる田園風景と遠くに浮かぶ筑波山。人々は桜ばかりでなく、飛鳥山からの素晴らしい眺望を楽しんでいたことが伝わります。現在この場所からは、新幹線や在来線が行き交う様子を眺めることができ、子どもや大人まで多くの人々を楽しませています。

歌川広重「名所江戸百景 飛鳥山北の眺望」(北区飛鳥山博物館所蔵)

## 江戸時代から愛され続ける桜の園 飛鳥山

満開に咲く桜のもと、多くの人々が花見を楽しむ、華やかな情景をあらわしています。中央に描かれている「飛鳥山碑」には、八代将軍徳川吉宗が桜を植樹した業績を讃えた内容が刻まれています。江戸時代からお花見客を見つめてきた石碑の前に立つと、桜の名所として人々に愛され続けてきた飛鳥山の歴史を感じることができます。



勝川春潮「飛鳥山花見」(北区飛鳥山博物館所蔵)



歌川広重「江戸名所図会 飛鳥山」(北区飛鳥山博物館所蔵)



思い思いに花見を楽しむ女性たちが印象的な作品です。飛鳥山公園は今も変わらず多くの人々で賑わい、親しまれています。

平成30年は江戸が東京となつてから150年を迎える節目の年です。かつて、江戸の行楽地であり、日光へ続く街道・日光御成道も通っていた北区。往時の賑やかな様子が描かれた浮世絵や、古い写真などとともに、ふるさと北区の魅力を再発見します。

浮世絵と写真で再発見する  
ふるさと北区の魅力



音無橋と建設中の区役所 昭和30年代



十条銀座 昭和30年代



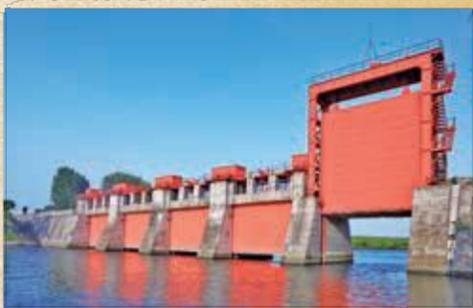
田端駅 昭和30年代



赤羽駅付近を走る蒸気機関車 昭和40年代

## 荒川の歴史を伝える旧岩淵水門

大正13年(1924年)の竣工以来、荒川下流域に住む人々の暮らしを洪水から守ってきました。昭和57年(1982年)に、新たな岩淵水門(青水門)に役割を引き継ぎ、平成21年(2009年)に「近代化産業遺産」に認定されました。「赤水門」の愛称で親しまれ、ロケ地としても度々登場しています。水門近くの荒川知水資料館(入場無料)では、荒川の治水の歴史について学ぶことができます。  
[荒川知水資料館問い合わせ先] ☎(3902)2271



手川文夫氏 撮影(大正10年代)



手川文夫氏 撮影(昭和20年代)



## 活気あふれる赤羽一番街商店街

赤羽一番街商店街の前身である赤羽復興会商店街は、戦後間もなく発足しました。左上の写真は昭和28年(1953年)の赤羽駅新駅舎落成記念大売出しの様子です。今も昔も人々の暮らしを支え、多くの人に親しまれています。毎年4月または5月に開催される「赤羽馬鹿祭り」は、商店街をはじめ赤羽のまちが一体となって盛り上がります。今年は4月28日(土)・29日(祝)に開催予定です。

行楽地・王子滝の川



歌川広重「東都名所 王子滝の川」  
(北区飛鳥山博物館所蔵)



お酒を飲み交わし、語らう人や川で水遊びを楽しむ人々が描かれたこの作品は、滝野川が避暑の行楽地として多くの人々で賑わっていたことをあらわしています。この浮世絵は現在の音無もみじ緑地の辺りを描いたもので、右側には岩屋弁天(松橋弁天)が描かれています。

王子の狐伝承

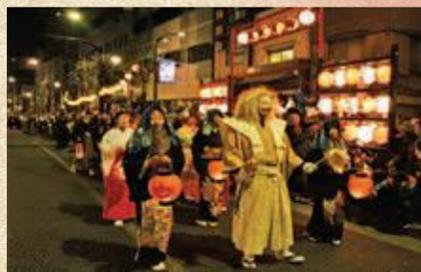
狐が人間を化かして大名ごっこを楽しむ様子を描いた作品です。化かされた男はそうとも知らずに殿様気分竹籠に乗っています。

大晦日には王子稻荷神社に詣でる狐が各地から集まると伝えられる王子。これを再現した「王子狐の行列」は、今では大晦日の風物詩となり、狐に扮した参加者が提灯を片手に初詣へと繰り出します。

このように、江戸時代後期の浮世絵にも描かれた王子狐の伝承は、時代を超え、形を変えながら受け継がれています。



歌川広景「江戸名所道戯尽 王子狐火」  
(北区飛鳥山博物館所蔵)



広報番組も併せてお楽しみください!

3月31日(土)まで、J:COMチャンネル東京北で、様々な浮世絵を通して王子滝野川の歴史を紹介する広報番組「浮世絵でたどる王子滝の川!」も放送しています。ぜひ、ご覧ください!

【放送日時】

毎日午前9時、正午、午後8時・11時の4回  
※4月から、YouTube北区公式チャンネルでも公開予定です。



YouTube  
北区公式チャンネル



歌川広重「名所江戸百景 川口のわたし善光寺」  
(北区飛鳥山博物館所蔵)

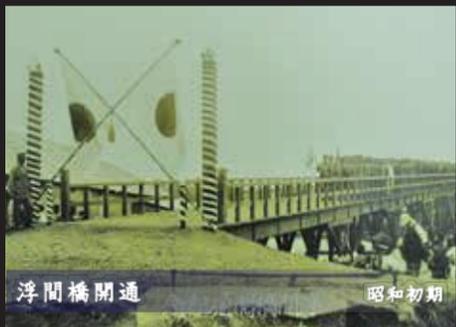
名所江戸百景 最北の地



荒川をはさんで、手前が岩淵、向こう岸が川口で善光寺も描かれています。岩淵は江戸時代の日光御成道最初の宿場町として賑わっていました。現在は橋が架かり、岩淵と川口の間を舟で往来することはありませんが、舟から見える景色は、どのようなものだったのでしょうか。



西ヶ原一里塚二本榎 大正時代



浮間橋開通 昭和初期



醸造試験所正門 昭和初期



紅葉橋 昭和10年代

四季を彩る旧古河庭園

鹿鳴館などを手掛けたイギリス人建築家ジョサイア・コンドルらにより設計された洋館と洋風庭園、日本庭園からなる国の名勝です。色とりどりのバラや花木が織りなす様々な風景が、四季を通じて訪れる人々を魅了します。

旧古河庭園は大正8年(1919年)の竣工から今年、100周年を迎えます。4月7日(土)・8日(日)のオープニングフェスティバルを皮切りに、12月にかけて記念事業や関連イベントが近隣の施設も含めて催されます。

〔旧古河庭園100年記念オープニングフェスティバルについての問い合わせ先〕  
☎(3910)0394



(昭和30年代)

公園に趣を添える舟串橋

音無親水公園の中央に架かる風情のある木橋です。橋の名は明治40年(1907年)に舟串豊作氏が石神井川に橋を架けたことに由来します。これからの桜のシーズンはもとより、夕闇の中、ライトに映し出される舟串橋は風情たっぷりです。右上の写真は昭和27年(1952年)に架けられた鉄製の舟串橋です。



(昭和30年代)



もうすぐさくらが見ごろ♪

# お花見スポット

kitaku sakura spot

## 住めば、北区。東京。

### 江戸時代から愛され続ける花見の名所



飛鳥山公園(王子1-1-3)

飛鳥山公園は、八代將軍徳川吉宗が桜の木を植えてから江戸庶民の一大行楽地となった花見の名所。約600本の桜が咲き誇るなか、毎年多くの人々がシートを広げて花見を楽しんでいます。



音無親水公園(王子本町1-1-1先)

景勝の地として親しまれたかつての音無川を再現し、「日本の都市公園百選」にも選ばれている音無親水公園。渓流に沿って連なる桜のトンネルが、石畳や木橋と相まって、江戸風情ただよふ空間を演出します。今年初めて開催される「桜ライトアップ」も必見です。

### 日常に溶け込む身近なさくら風景

荒川と新河岸川をはさむ堤防上にある荒川赤羽桜堤緑地には、約100本の桜の並木道が続いています。散策をするもよし、休息に立ち寄るもよし…ゆったりと川辺に揺れる桜を堪能できます。



荒川赤羽桜堤緑地(赤羽3-1-29先)岩淵町41先



石神井川沿い遊歩道(滝野川5~王子1あたり)

石神井川では、王子駅から上流の新板橋駅付近にかけて約100本もの桜が咲き連なる見事な景観が広がります。河岸の遊歩道には随所にベンチも設けられているので、桜を眺めながらのウォーキングに最適です。



滝野川さくら通り商栄会(滝野川7あたり)

地域の人々が生活する空間に立ち並ぶ約80本の桜の木。この滝野川さくら通りをはじめ区内のここそこで、人々の日常に寄り添い、彩り豊かな表情を見せてくれます。

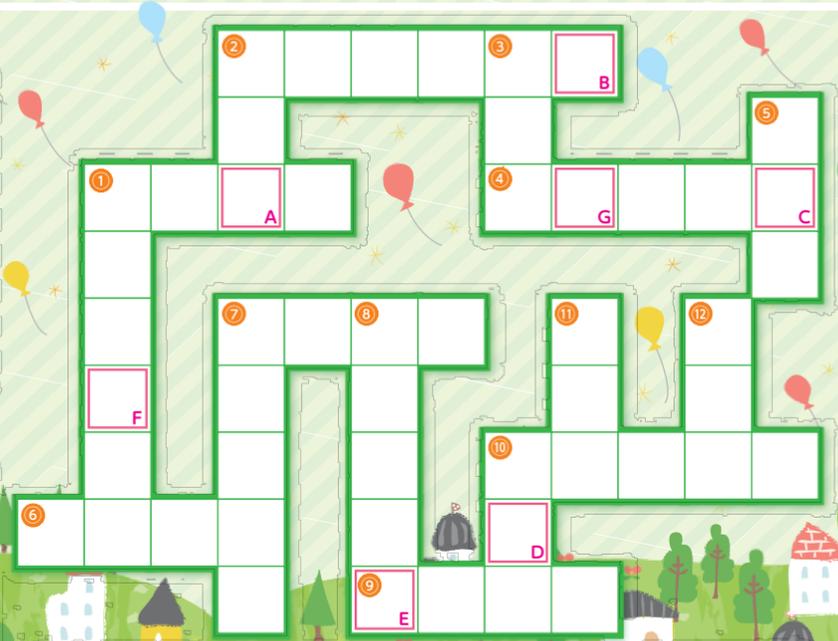
### たてのカギ

紙面や北区ホームページにもヒントがあるかも?

- ①昭和33年に流された橋を復元した音無親水公園の木橋
- ②かつて飛鳥山公園にあったのは○○○山タワー
- ③浮世絵「東都名所 王子瀧の川」は現在の音無○○○緑地のあたりを描いたもの
- ⑤毎年大晦日から元旦にかけて行われる年越しイベントは「○○○狐の行列」
- ⑦「よこのカギ①」は完成してから今年で何年?
- ⑧王子駅から新板橋駅付近まで約100本の桜が咲き連なる○○○○川
- ⑩北区のブランドメッセージは「○○○、北区東京。」
- ⑪主に桜の花を鑑賞し、春の訪れを祝う日本古来の風習のこと
- ⑫「よこのカギ④」の通称 赤○○○酒造工場(ヒント:外観の造り)

### よこのカギ

- ①春と秋に約100種類199本のバラが咲く旧○○○○庭園
- ②旧岩淵水門の愛称
- ④幕府の大砲製造所だった国指定重要文化財 旧○○○○試験所第一工場
- ⑥江戸庶民の行楽のため飛鳥山に桜を植えて開放したのは徳川○○○○
- ⑦区内の風景の浮世絵を数多く描いたのは歌川○○○○
- ⑧赤羽復興会商店街は現在の赤羽○○○○街商店街
- ⑩旧岩淵水門は現在の○○○○の水量を調整するために造られた



北区には A B C D E F G がたくさん!!

# 北区クロスワードパズル

パズルの答えは北区ニュース 3月20日号2面下にあります。